

2011年
12月議会

切実な声を市政に 世論を背に市政動かす

12月議会で日本共産党は、負担増や放射能ホットスポット問題で苦しむ市民の生活実態を告発。くらし・福祉の充実を求め、市政・国政のあり方を厳しくたがすとともに、市立病院建替え問題でも論戦をリードし奮闘しました。最終日の議長・副議長選挙では、日本共産党独自の候補者を擁立。自治体憲法である自治基本条例の制定を訴え、議長・副議長選挙を戦いました。

日本共産党

事業者や労働者団体と意見交換し 「公契約条例」の制定を

いとう 余一郎
伊藤 よいちろう
健康福祉常任委員

公契約条例は、低入札価格によって労働者の賃金低下を招く状況の改善を目的としたもの。そこで「市は低価格入札防止や下請業者の支払い賃金が最低賃金を下回らないようどう対策しているのか」と質問。これに対し、市は「最低制限価格制度を採用し、低入札防止に努めている」などと答弁。同議員は「しかし、公共工事に従事する労働者の適正な賃金確保を目的としたものではない」と指摘。「条例制定」を強く求めました。

その他の
質問項目

- 「事実」をねじ曲げた「広報まつど」記事の撤回を
- 五香市民センターに「来年度にはエレベーターの設置を」と要望
- 私立幼稚園への単独補助金の増額を一と強く要請

説明責任を果たすべく 「行政評価の分かりやすい資料」の公表を

宇津野 ふみゆき
うつの 史行
教育経済常任委員

「松戸版事業仕分け」は、くらし・福祉削減の「口実づくり」として実施され、対象の一部事業が縮小・廃止されています。行政の都合による評価ではなく、「市民の生活目線からの評価」をすすめるため、「分かりやすい行政評価資料」づくりを提案し「2011年度末に公表する」という答弁を引き出しました。

その他の
質問項目

- 「地域の仕組みづくり」の押しつけは止めよ
- 「広報まつど」東松戸病院の上本郷移転は撤回を
- 放射能汚染対策のいっそうの充実を

希望するすべての児童が入所できる 放課後児童クラブの整備を

たかはし 妙子
高橋 たえ子
総務財務常任委員

「児童クラブの定員を超えている施設の分割・分室で環境整備を行うべきではないか」との質問に、市は「44カ所中定員オーバーの施設が19ヶ所、施設整備に向けて市教委と協議し余裕教室の活用に努力」と答弁。同議員は「国・県は40名を超える施設の分割を促進と指摘している。市も施設の設置基準を定め、必要とする児童すべての入所を認め、分割・分室を進めること」を求めました。

その他の
質問項目

- 古ヶ崎地域の住宅地を通り抜ける輸送車の振動・騒音対策を
- いのちと健康を守る国民健康保険について
- 生活支援について一派遣村への支援を
- 特別支援学校の増設および支援教員の増員を

少人数学級の拡大で 行き届く教育環境を

たかぎ けん
高木 健
都市整備常任委員

2011年度より小学1年生で35人学級が始まりました。日本共産党が保護者の皆さんとともに求めてきた、きめ細やかな教育環境へと一歩前進です。しかし松戸市では、学校統廃合により大規模校が増え、教室不足で少人数学級が実施できるのか不安が残ります。質問に対し当局は、少人数学級の学年拡大に併せ、これまで以上に学校の大規模化を進めることを認めた答弁をしました。教職員の加配や学校選択制の見直しなどによる、教育環境の充実こそが急務と迫り、考えを改めるよう求めました。

その他の質問項目

- 北小金駅など鉄道駅バリアフリー化の促進を
- 「松戸版事業仕分け」に効果はあったのか
- 震災を受けて、防災無線などの見直し状況は



市立病院移転問題

本郷谷市長が「広報まつど」記事の 間違い認め「訂正・謝罪する」と言明

「広報まつど」の記事が市民に混乱と動揺を与えているもとで開かれた昨年12月14日の「市立病院建設検討特別委員会」で、本郷谷市長は「広報まつど」の記事に事実と異なる記載を認め「訂正・謝罪する」と言明しました。

「特別委員会」で日本共産党は、10月15日の「広報まつど」の記事が「東松戸病院を上本郷に移転する」という市の案が決まったかのように記述されている問題を追及。「東松戸病院が上本郷へ移転するなど決まっていけないではないか。そのことをこの場で表明すべきだ」と厳しく要求しました。また、「市民に深刻な誤解と不安を与えたことに対し謝罪せよ」「東部地域に足を運んできちんと釈明すべきだ」と主張しました。これに対し、本郷谷市長は、「東松戸病院の移

転は決まっていけない。今後、議会と議論していく。具体的内容は検討するが、その提案も含めて検討する」とはじめて記事が事実と異なることの認識を示しました。

日本共産党は、これまで、「特別委員会」の「中間報告」でも、市立病院の「千駄堀への移転案を基本的に尊重する」という議会の認識は示されたが、東松戸病院については、「今後十分な協議が必要」としていること等を指摘。一般質問や市長への「申し入れ」などで記事の「訂正」と「謝罪」を求めてきました。しかし、本郷谷市長は、記事の訂正は認めないため、「東松戸病院は存続・充実を」と求めて奮闘します。

馬橋の長津川鋼矢板護岸は10年後工事

やまぐち まさこ
山口 正子
健康福祉常任委員

「中根立体の手前国道6号線沿いの長津川は、コンクリートではなく鋼矢板護岸のため腐食し危険。今後、大地震や豪雨時の崩壊はないのか」と質問。市からは、「鋼矢板護岸は正式な工法だが耐用年数から今後10年位で改修を検討。JR横断部は自然の圧力で流れるサイホン構造になっており旧河道にも流れるので水害の恐れはない」との答弁がありました。同議員は「JR横断部の堆積泥の定期的な除去を確実に実施すること」と要望しました。

その他の
質問項目

- 介護保険制度改定に当たっては、軽度者の切り捨てをやめよ
- 子ども・子育て新システムの導入撤回、児童館の増設を
- 新京成常盤平駅南口のバリアフリー化の促進を

まつど民報
【市政報告】

2012年1・2月号
日本共産党松戸市議団
TEL 047 (366) 7403
FAX 047 (366) 5915

どうぞあなたのご意見・ご要望をお寄せください

裏面もご覧ください

HPアドレス <http://jcp-matsukama.main.jp/>
メールアドレス jcpmatsudo@earth.ocn.ne.jp